平成２８年度　第２回豊橋市総合教育会議議事録要録

平成２８年８月２５日　開　催

豊　橋　市　教　育　委　員　会

第２回　総合教育会議	
日時	平成２８年８月２５日（木）午後４時００分～６時００分
場所	市役所東館１２階　教育委員会室
構成員	佐原　光一　市長　、山西　正泰　教育長 朝倉　由美子　教育委員、高橋　豊彦　教育委員 芳賀　亜希子　教育委員、渡辺　嘉郎　教育委員
事務局	加藤　喜康　教育部長　、駒木　正清　教育監 金子　尚央　教育部次長、 村田　敬三教育政策課長　　守田　雅一　学校教育課長 保健給食課長 財務部長　　財政課長 中田　浩次　教育政策課主幹、山本　誠二　教育政策課長補佐 ほか　全１４名
その他	傍聴人　なし

議　事　日　程

市長あいさつ

協議事項

１　いじめ、不登校の現状と課題について

２　学校整備の新しい取り組みについて

３　教育課題検討会議中間報告について

４　今後の協議事項について

連絡事項

・次回開催日程

平成２８年１２月８日（木）午後２時から

（市長）
初めに、いじめ、不登校の現状と課題について説明をいただきたいと思います。

協議事項

１　いじめ、不登校の現状と課題について

■学校教育課長　協議事項について説明（別添資料）

（市長）
まず、手元の資料で言いますと、４ページまでのいじめ・不登校について、質問がありましたらお願いします。現状分析を踏まえたうえで、何かありましたら、出していただきたいと思います。モデル校については提案ということです。不登校の出現率とスクールカウンセラーの利用は必ずしもつながっていないですね。南部中学校は、標準並みで、利用率がすごくいいですね。二川中も同じですね。章南中は、6.48 も出現率があるのに、利用率は平均以下ですね。
（学校教育課長）
南部中や二川中というのは、どちらかというと相談活動がしっかりしています。早期対応によって、これだけの出現率におさまっていると考えます。活用の仕方などを検証していける学校だと思います。逆に出現率が高く活用率が低い学校については、もっとしてほしいと考えております。
（市長）
うまくいっているところだけをモデル校にしていいのかと思います。例えば、牟呂中みたいに、出現率が高くて活用率が低い学校とかでという議論はなかったですか。
（学校教育課長）
それもあったのですが、現状としては、現在の県のスクールカウンセラーで、牟呂中は、活用ができるのではと思います。
（市長）
モデル校は、県の配置に市の配置を加えるということですね。週１回が２回になるということですね。
（学校教育課長）
中学校は、週１回ですから月４回です。もしモデル校になりますと、南部中学校の校区に週１回ずつ入りますので、月に４回ですので、南部中については、月に１回か２回増えることになります。
（高橋委員）
３校に１人のスクールカウンセラーが、入るということですね。

（市長）
　隔週で、間に栄小と福岡小に入るのですね。
（学校教育課長）
スクールカウンセラーは、週１日で、あとはカウンセラーとして、他の仕事をしています。スクールカウンセラーの雇用は、個人契約で年に３５回です。
（教育長）
県の臨床心理士会を利用して、個人との契約になります。中学校は、同じカウンセラーが３５回訪問します。小学校は、４校で一人のカウンセラーが訪問します。このように配置するように、県から出ています。
（市長）
うまくいっているところは、このままでいいのではないかと思いますが。
（学校教育課長）
一つは、小中連携と考えた時に、うまくいっているところは、小学校から中学校にあがってきた時に、小学校の様子を踏まえて、詳しいアドバイスができる体制として、モデルを作りたいので、ある程度実績がある学校でということで、相談件数の多い学校を選定しました。
（高橋委員）
前回の議論は、選定の理由の中では、出現率が多少高いと言っても、平均より高いところでということでした。相談しやすい環境があるところの方が、成果が出やすいという議論でした。小中の９か年の長い期間でみていくことがより大切で、県費だけではうまくいかないから、市でということだと思います。モデル校の選定には、色々な議論があると思いますが、どこの学校において、成果が出やすいかということだと思います。この前の相談件数について、保護者と子どもの割合については、どうですか。
（学校教育課長）
南部中と二川中、豊岡中の３つの校区で、相談の割合を調べました。小学校と中学校を別に考えると、小学校では、スクールカウンセラーの相談は、子どもが３０％、保護者が３２％、子どもと保護者が一緒に相談をしたのが、１６％で、教員が２２％でした。中学校は、子どもが２４％、保護者が１５％、子どもと保護者が一緒に相談したのが５％、教員が５６％で、県より圧倒的に高くなっています。　どちらかというと、小学校は県に比べて、子どもと保護者の相談割合が高くて、子どもと保護者については同じぐらいになっています。
（市長）
小学校で一番不登校が多い下地小の子どもが通う北部中が少ないのは、大村小や津田小が少ないということでもないようですが。特定の集団によって、不登校率が左右されるのでは。

（教育長）
　不登校は、一人が休み始めると、その周囲が休み始めるという傾向もあります。学校がどのように抑えていくのかが、大きなポイントになります。
（朝倉委員）
　不登校出現率が高い学校で、相談件数が少ないという点では、異なる視点で、こういうことが解決できない問題点は何なのかが抽出できるのではないかと思います。うまくいっているところはそれでいいのですが、うまくいっていないところと、どこがどう違うのか、どのように対応していかなくてはならないのか方策が見つけられるのではないかと思います。
（市長）
　学校やカウンセラーについて、相談しやすい雰囲気があるのかないのかなど、そのような情報はありますか。
（学校教育課長）
　年度末に評価は行っています。
（市長）
　カウンセラーから見た学校評価もあるといいですね。カウンセラー自身が、ここの学校の先生は、自分をうまく活用してくれているとか。カウンセラーの活用の仕組みづくりとして。
（教育長）
　校長のカウンセラー評価はあるのですが、カウンセラーの学校評価はないです。
（市長）
　校長がカウンセラーの活用の様子を正しく把握していることが大切ですね。活用状況がいいところをモデル校にすることについて、もう一度考えて次に示してください。
（渡辺委員）
　中学校での相談は、教員でいうと半分ぐらいで、内容は不登校ということですね。これは中学校の先生が不登校について困っているということです。困っている先生が多いところにカウンセラーを増員して、困り感を減らしてあげたほうがいいという考え方もあると思います。根本的に、不登校やいじめについて困っている状況の改善について、本来考えなくてはいけないと思います。
（市長）
　サポートによって悩んでいることを軽減していくことですね。
（教育長）
　今のカウンセラーの問題ですが、中学校は中学校に配置されたカウンセラーがいて、小学校では小学校のカウンセラーがいて、小学校から中学校へあがっていく子どもたちのつなぎがうまくいくためにも、このモデル事業を進めたいということです。県では、そういうわけにはいかないので、小学校と中学校をつなげることができるカウンセラーの配置が

できたらと思います。
（高橋委員）
　モデル校は、２校という前提ですね。
（市長）
　モデル校１校あたり、つまり一人当たり年間どのくらいになりますか。
（学校教育課長）
　一人約１００万です。年間１９６時間で、一回　５５００円×７時間です。
（高橋委員）
　ハイパーQUやカウンセラー側の学校評価を意識しながら、この施策を考えていけるといいです。
（市長）
　教員の多忙化についてもご意見をいただきたいと思います。１３ページの取り組みとして進めたいということですね。８０時間とかは、ひと月の時間ですね。教員が無駄な時間を過ごしていることはないですか。
（教育長）
　昼間は、授業をやっていて、空き時間があればテストの採点をしていたり事務をしたりしています。夕方に職員室にもどると、子どもたちの様子を職員同士で話して、無駄な時間を過ごしている教員は、ほとんどいないと思います。
（朝倉委員）
　授業で振り返りの時間をもつと、それに先生がコメントを書いて子どもに返すことをしています。子どもの書いたものに応じてコメントを書くのにも、相当な時間を費やしている先生も多いと思います。先生によって、そこにかける時間の差があるのではないかと思います。
（市長）
　私もそう思っていましたが、この資料を実態として読むと、そこにかける時間より、部活動や事務作業にかかる時間が多いように思います。部活動に携わっている先生の中で、本当に好きでやっている先生以外はやめることも考えて、セカンドキャリアとして外部に依頼することもできると思います。桜丘高校卒業の水泳の加藤ゆかさんは、足立区にお住まいで、小学校で水泳を教えていらっしゃるそうです。
（教育長）
　難しいのは、教員にも部活をやりたい人とそうでない人がいて、そこに多忙感が出てしまうことです。総合型地域スポーツクラブですべて教えるのも一つの方法だと思います。部活動を教員がすることで、生徒指導面におけるよさもあるものですから、それを全く学校から切り離してしまうのはという問題もあって、整理がつきにくいところがあります。
（市長）
　時間が生まれれば、子どもに向き合う時間も増えると思いますが、難しいですね。何か

アクションを起こさないと変わらないですね。
（高橋委員）
　総合型スポーツクラブでやっていくのか、学校単位で外部講師が入るのか、２択というアプローチなのかというところですね。すでに東陵中など数校は進めているので、それを継続して緩和するのか。学校単位で、色々なスポーツで競うという現状でいうとどうなのか。前芝中では、部活動の人数が少ないから、男子はテニスとハンドボールしかないんですよね。それ以外のスポーツの選択肢は、ないんですよね。そういうことも含めて、どういう方向がいいか、アプローチを議論していかなくてはいけないです。
（教育長）
　そうですね。動かなかったらどうしようもないですね。
（高橋委員）
　いずれの方向でも、スポーツを通じた子どもたちの教育に、教員以外の方に積極的に入ってもらい、関わり方の仕組みを考えていくしかないと思います。ＮＨＫのクローズアップ現代という番組でもありましたよね。部活動のよさと問題について。
（市長）
　今の社会の情勢に、何が一番合っているか。試さないと答えが出ない部分も多いですね。
（高橋委員）
　教員が、ツイッターで部活動について投稿し始めています。子どものことが、どこかへいってしまっていて、あまりいいことではないと感じます。
（朝倉委員）
　先ほどののスクールカウンセラーのモデル校について議論がありましたが、これについてもモデル的な取り組みをと思いますが。
（芳賀委員）
　部活動の細かな取り決めは、ありますか。朝練についてとか。
（教育長）
　国はありませんが、市はあります。部活動の手引きにそって、部活動を行っています。
（市長）
　先生方の夏休みについて、どのような勤務内容ですか。
（教育長）
　プール指導、学習指導などをしています。あと夏休みには、研修が集中して入っています。
（学校教育課長）
　平常日に子どもとの時間を確保できるように、夏休みに研修が入っています。一人の教員が研修に出ますと、そこに別の先生が代わりに入ったり、研修から戻ってきても子どもの学習プリントの確認などが必要になります。平常日に出張をできるだけ削減しています。

（朝倉委員）
　夏休みにも、毎日部活動をしていますね。先生方も勤務ですが、遅くまでということは少ないのではと思います。
（高橋委員）
　ここ数年で、勤務時間が４０時間ほど増えたと聞きますが。
（学校教育課長）
　個人情報という点で、ノートやテストは持ち帰ることができないので、在校時間としては増えていると思います。
（芳賀委員）
　昔は、ノート指導などを家でやっていたということで、学校でやるか家でやるかということですよね。
（学校教育課）
　会計事務とか慣れないところが大きいです。他郡市からきた先生は、会計事務などは事務職員がしていたということで、余計に負担になっていることがあるようです。
（市長）
　市によって様々ですから、他市のうまくいっている事例を調べてみるといいですね。
（学校教育課長）
　校務支援システムの活用については、岡崎市や豊田市は進んでいますし、豊橋市でも現在準備を進めています。
（市長）
　検討は進めるが、それぞれの切り口で議論してほしいところを伝えてください。１３ページにある課題をなんとか解決する方向でということでいいですね。平成２９年度から、校務支援システム導入で進んでいるんですね。
（高橋委員）
　隣の市に異動しても、困らないということになるわけですね。個人情報ではありますが、子どものデータを一括管理することも、多忙化を改善する切り口にはなりますね。
（市長）
　子どもが転校した場合にも、困らないということになりますね。医師の視点から、渡辺先生いかがですか。
（渡辺委員）
　ストレスチェックも行っていると思いますが、先生方の多忙感がそこにどう表れてくるのか、興味があるところです。また、多忙化については、時間だけではなく他の評価をしていくことが必要だと思います。多忙感を軽減する点では、先ほどのスクールカウンセラーのサポートなどは、その対応にいいと思います。
（朝倉委員）
　時間のデータはあるのですが、精神的な面で休養が必要になった先生の数やストレスが

ありサポートが必要な先生はいらっしゃいますか。年齢層など、そういう情報はあるのでしょうか。
（教育長）
　数字は出してないですが、これでストレスチェックを始めていきますので、そこで把握できると思います。
（渡辺委員）
　学校医が年に１回は健康診断のデータをもとに面接をしています。ストレスの話も聞いています。
（芳賀委員）
　１３ページのところの校内会議を減らしすぎると情報共有という点で、支障が出てくる可能性が考えられます。
（高橋委員）
　伝え方の工夫は、必要ですね。顔を突き合わせて共有するものと、文書によって共有するものとに仕分けしていくといいですね。
（市長）
　校務支援システムによって、そこはサポートできる部分かもしれませんね。
具体的にどういう方向でいくかをはっきりもって検討会議で進めていくとういくことで。

協議事項
　２　学校整備の新しい取り組みについて
　　■教育政策課長　協議事項について説明（別添資料）

（市長）
　では、学校整備の新しい取り組みについて、ご意見をお願いします
（高橋委員）
　ＩＣＴにかかわるいじめの問題や、うまくＩＣＴになじめない教員による多忙化にならないといいなと思います。メリット、デメリットがあると思いますが。
（市長）
　嵩山小のモデル授業の結果は、どこかで発表されているのですか。
（学校教育課長）
　今年の 11 月中旬に発表となります。
（市長）
　子どもにとって効果があったかどうかだけでなく、先生にとってどうだったかを考えていくといいです。

（高橋委員）
　塾でも、タブレットを使っていますね。
（市長）
　学校でも使いやすいものは、どんどん使っていくといいです。電子黒板とか。練習問題もたくさん作れるよさもあります。
（朝倉委員）
　３Ｄプリンターは、必要なんですかという気もしますが。
（高橋委員）
　製造業の試作でテストができるよさや、再現性という点でスキルが必要なのではないでしょうか。
（朝倉委員）
　医療の現場では、活用されているが、子どもには必要なのかどうか。
（市長）
　今の子どもたちにどんなスキルを身につけて、社会に出すことが大切なのかと考えることがありますが。
（渡辺委員）
　これからの教育は、人間として最低限必要なこと、つまり変わらないことをしっかり押さえておかないといけないと思います。
（市長）
　３Ｄプリンターを各学校に入れないといけないとは思いませんが。
（高橋委員）
　ものすごく細かいことができる人間が育つのかと思いますね。人がしないといけない部分がありますから。
（市長）
　とりあえず、紹介をしてもらったということですが、どんな学校にしたいのか、どんな子どもたちを育てたいのか、どんな教育していきたいのかを語ってほしいです。その中身については、これからということになります。
（渡辺委員）
　子どもたちが床でいろいろやっている資料がありますが、このような形でいくのかどうしていくのか一度考えてほしいです。机の上でしてもらうようにしたほうがいいかなと思います。やはり、床で学習するのはいいことではないと思います。きれいに掃除されていないと気になります。

３　教育課題検討課題中間報告について

■教育政策課長　　協議事項について説明（別添資料）

（市長）

では、報告について意見がありましたら、お願いします。小規模校の問題や小中一貫、今後起こるであろうことについてでした。

（高橋委員）

子どもの数が減っていくという前提ですが、むしろ出生率の問題だとか人口流入に対して具体的な学校教育の視点からの提案についての議論はなかったのですか。都市間の競争にもなり、全国的にも大きな問題だと思うのですが。

（市長）

学校について他市との差別化をしたとしても、変化が限られるかなと思います。

（高橋委員）

地域とのつながりを含めて、人口が減っていくことのデメリットとして取り組んでいくことの提案があるといいと思います。減る前提ではなく、減らさないという保持の面での提案があるといいと思います。

（市長）

減らさないためにすることは、この委員会でしていくこととはなっていないのではないかと思います。郊外は確実に子どもの減少があるということで、考えていると思います。

（朝倉委員）

愛知県の人口は増えているのに、東三河は減っていると聞きました。

（市長）

大きく増えているのは、西三河と名古屋周辺です。働くところがどれだけあるかということですね。

（教育長）

へき地の担当をしている時に、全校が２０人の学校とかをいくつかまわりましたが、学校がなくなると、その地域が一気に衰退してしまうんです。地域そのものがなくなってしまいます。だから、極力、小さくなっても存続させたいというのが自分の思いです。子どもたちにとっては、一緒に音楽や体育ができるかという話になります。全校でドッジボールをやっているんです。だから、どこの部分で何をひくかは難しいのですが、地域とのつながりは最後まで残していかないといけないと思っています。

（市長）

小中学校が一緒に学ぶことは情操教育になり、とてもいいと思います。よさは、たくさんあります。

（渡辺委員）

空き教室がありますよね。そこに高齢者がいる学校をつくったらどうだろうという考えもありますね。

（市長）

文科省でもセキュリティーが保てればいいということなので、今度の高根小学校は、小学校と校区市民館を一緒に作って、住民が入って来られるようにすることも考えています。

（渡辺委員）

お年寄りの学校みたいにその教室を作っていくことによって、地域の人が学校に来るようになって、先生方にもいい効果があると思います。

（市長）

先生が教えることのできないことを、地域の人が教えてくれることもありますね。

（教育長）

そういうことも考えてでも、学校を残していきたいと思います。

（高橋委員）

一つの建物が一つの学校であるという概念を壊さないといけませんね。発想の転換が必要ですね。

（教育長）

新城市は統廃合を進めた時に、住民の納得の上で進めたそうです。地域の方がどう思うかなのですが。学校の運動会や学芸会に、地域の方が足を運んでくれることで、地域も元気になるんですよ。それがなくなってしまうのは、どうかと思います。

（高橋委員）

市としても考えていくのですが、地域の方々にも問題意識をもってもらうしかけをしていかないといけないと思います。減ってしまってからではなく、早めに意識してもらうようにするといいですね。

４　今後の協議事項

教育政策課長　　説明（別添資料）

連絡事項

・次回開催日程

平成２８年１２月８日（木）１４：００～